

編集メンバーからの メッセージ



新 香織 一般社団法人ガールスカウト埼玉県連盟 理事

よちよち歩きができるようになると、公園に出かけることも増えてきます。しかし、幼稚園・保育園に通う頃になると、公園に出かけなくなったという声を聞くことがあります。理由はさまざまですが、成長とともに自然と触れ合う機会が減ることは残念でなりません。自然の中での学びはあらゆる学問に通じます。親自身が動植物など自然のことに詳しくなくても、安全に配慮して子供たちを外へ連れ出し、きっかけをつくってあげることができればよいのです。この冊子を活用し、身近な自然に触れる機会が増え、子供たちのさまざまな可能性が広がることを願っています。



飯島 希 こどもの根っこを育てる会 代表

子供は遊びの天才です。遊具のない自然の中でさえ、虫やお花、葉っぱで遊びだします。それには、大人のちょっとした言葉かけがあれば十分！その一助として、是非この冊子で紹介しているプログラムを活用してみてください。そして五感で自然を楽しむお子さんの素敵な才能を発見してみてくださいね。

夢中になって自然遊びをした幼児期の記憶は、やがては、自分も自然の一部であるという“自然観”を形成し、それが「皆と共に生きる」という共生感や思いやりの心を育てていくことでしょう。そんな願いをこめてこの冊子づくりに参加しました。



大室 喜美江 上尾市立平方幼稚園 副園長

私の子供時代の楽しかった思い出を振り返ると、近くの河原で石飛ばしごっこ、草花を集めておままごと遊び、父と行った蝉採り等、自然とは切り離せない遊びばかりです。しかし、都市化が進んだ現代は草花や虫たちに触れる機会が減少しているのが現状です。感性が育つ幼児期にたくさん自然物に触れる経験は、知的好奇心を呼び起こし、命の大切さにも気付くことができます。親子で近くの公園へ出かけてみませんか？葉っぱや草の陰に小さな生き物やかわいい花の蕾を見つけることでしょう。そこにはきっと子供たちの瞳の輝きと笑顔が溢れ出ます。



佐藤 朝代 NPO法人けやの森自然塾 理事長

かつて私たち、けやの森自然塾は、近くを流れる入間川の源流から東京湾まで、全長120kmをカヌーに乗って下ったことがありました。この危険に満ちたカヌーツアーに力いっぱい挑んだK君(小4)とS君(小1)は、深い感動を味わいました。その後、K君は水生昆虫に興味をもち生物学者、生命の危険と向き合ったS君は医師になる道を自ら選択しました。私は環境を整え、そっと後ろから支える二人の母親の姿に感銘を受けました。子供たちの豊かな将来のために、この冊子が活かされ、親子で自然にふれて学ぶ機会が増えることを願っています。

編集メンバーからの メッセージ



諏訪部 真友子 NPO法人国際自然大学校

自然の中には、我々人間を含めいろいろな生き物がいます。例えば身近なアリを見ても、かわいい顔のアリ、臭いアリ、小さいアリなど多種多様です。最初は「アリ嫌い!」と思っけていても、名前を知り、生態を知り、付き合い方を知ると、「おっ、このアリ意外と面白いな…」とちよつとだけ見方が変わってくるかもしれません。

埼玉県内には大都市から大自然まで多様な環境が広がり、地域ごとに見られる生き物も異なります。この冊子のゲームや生き物探しも、地域によって違った面白さを発見できるはず。まずは外に出てみて、自然を眺めてみてくださいね。



牧野 彰吾 NPO法人埼玉県絶滅危惧植物種調査団 代表理事

童話の「むかしむかしあるところに」という書き出しは、子供たちを現実からはなれた異空間に引き込みます。ところがその「現実」も「今は昔」といえるほどの時代になってしまいました。私が子供のころのさかな釣りやエビガ二つりは何気ない遊びのメニューでした。そしてそれらの他愛もない遊びが、自らの人生観に大きな影響を与えたのではないかと感じる事がよくあります。幼いころの一期一会の実体験には将来の人生設計に必要な貴重な要素を多く含んでいるように思えます。そうした想いを伝えることができればと考えています。

監修 牧野 彰吾(植物) NPO法人埼玉県絶滅危惧植物種調査団 代表理事
小峯 昇(鳥) NPO法人自然観察指導員埼玉 代表理事
江村 薫(昆虫) 埼玉昆虫談話会 会長

協力 イラスト 諏訪部 真友子 (P18~21、P30~P31)
クラフト さいたま緑のトラスト協会0号地 (P13)
NPO法人エコ.エコ (P12~P13)

(敬称略・順不同)

編集メンバーからのお願い!

- 植物や毛虫などの中には、触るとかぶれるものもあります。十分注意しましょう。
- 虫さされやかぶれ予防のために、肌の露出が少ない服装にしましょう。
- 葉っぱやトゲで手を切らないように気をつけましょう。
- ハサミなどの工作道具は、保護者の方と一緒に使いましょう。
- 虫めがねを使う時は太陽を見てはいけません。目が見えなくなることがあります。
- 植物や虫に触れたあとは、石けんを使って流水でしっかり手を洗いましょう。